碩心

社団法人　日本詩吟学院岳風会　認可
神奈川　碩心会　発行

5年5月　（250号）
発行者　根岸岳萃
編集者　中村岳愛

5年5月現在会員数

逗子地区	165名
葉山地区	237名
大船地区	43名
（合計	445名）

予定行事

◎碩心会常任理事会
日時・5月17日（月）午後7時より
場所・桜山下会館

◎県本部定時総会
日時・5月23日（日）10時30分より
場所・神奈川労働センター
（根岸線、新杉田下車）

◎碩心会温習会
日時・6月6日（日）9時30分より
場所・逗子市立図書館ホール

◎横須賀第二地区吟道大会
日時・6月20日（日）9時30分より
場所・鎌倉中央公民館分館

県本部　東北岩手路吟行会

（碩心会参加予定者・4／30日現在）

男
根岸岳萃　中村岳郵　松井正岳
新井衛風　根岸哲山

女
中村岳愛　森田暁岳　杉山雪岳
佐藤湧岳　村田瀞岳　白井麗岳
田辺伯岳　安田聡岳　鈴木深風
海津勝山

皆伝合格　（五月一日付）

一四四 福本辰岳　一六八 黒沢華岳　一六九 杉本恵岳
一七一 後藤道岳　一七三 松井正岳　一七六 隈園晴岳
一八〇 大屋正岳　一八一 三壁照岳　一八二 嶋村幸岳
五九八 臼井照岳　おめでとうございます

碩心会、皆伝会開催さる

日時・平成五年五月四日（火）十一時より
場所・葉山、堀内会館

（次第）

1 開会の辞　加藤岳相
2 碩心会詩合吟　先導　沼田岳雷
3 会長挨拶　根岸岳萃
4 相談役挨拶　三井岳瓏
5 皆伝新取得者紹介　中村岳郵
6 議事
一、議長並びに書記任命
二、議題
（1）各地区長、部長報告
（2）平成四年度会計報告
（3）其の他
三、議長並びに書記解任
7 懇親会　乾杯　秋元梁岳
8 閉会の辞　千葉岳関

前日までの不順な天候が、一変してすばらしい好天気となり、新皆伝者を含め59名が出席、益々の精進を誓い、無事終了しました。

◇当日の議事内容都合上来月号に記載予定。

碩心皆伝会の折句で　宇都宮徳岳

碩人の心を心に皆励み
伝統生かし会心の吟

皆伝までの道のり

風早　後藤　道岳

私が詩吟にかかわって早くも十有余年が過ぎました。思い返せば、長かった様な、又短かかった様な気がします。今日迄続ける事が出来たのは、先生のお力は申すに及ばず、吟友の方々に支えられたればこそと、あらためて感謝している昨今です。

はじめは無我夢中で、唯々棒暗記に過ぎなかったと思います。たまには以前のカセットテープを聞くこともありますが、五言絶句のおとしの難しさなど、先生の根気よい指導の教室風景が納めてあったり、今はすでに退会なさった吟友の方々の吟調など、遠い日りこどもが懐かしく思い返されます。現在新会員の方々が、同じところで苦労されているのを聞くにつけても、ドン、マイドン、マイと心の中で声援をおくったりも致します。

私が入会した数年は、風早支部の隆盛期だったと思われます。会員数も今の倍近くで教室が狭く思われる程でした。合吟コンクールに参加する都度、優勝の栄に輝いた事など、遠い語り草になってしまいましたが、頂いた賞状を飾った中で、毎回勉強に励んでいます

この度、岳位のお仲間入りをさせて頂きましたが、現在に至るまで、幾多の吟の指導にあずかり、歳月の流れも知らず精進してまいりましたが、果してこの岳位に恥じない実力が備わっているものかと反省しつつ、朱熹の偶成の詩文の如く「一寸の光陰軽んずべからず」を意に体し、私の吟道への指針として、今後の碩心会の一員として、吟の向上を念じつつ、「三意一声」和をもって尊しの心を大切に、益々励む所存でございます。

碩心会、岳風会の発展を祈りながら、まだまだ長い道のりを九段、十段をめざして、思いを新たに歩んで行きたいと存じます。

教場だより

吟に入りては吟姉妹

桜山A　石月翹岳

寒さも次第にゆるみ、春光の日差しが柔かく、嬉しい日々でございます。支部長さんからお教室風景を書いてもらいたいとのお言葉があり、戸惑いましたが、何とか書かせていただくことにいたしました。

吟のお仲間に入れていただきましてから、早いものでもう十五、六年になりましょうか。過ぎ去りました日々は何時の間にか…と思う程に早いものでございます。そしてこれから先の人生はこの年数には及ばないものと思い心寂しく思われます。

生ける者遂には死するものにあれば
この世なる間は楽しくあらん…と

まさにその通りと思い、楽しく生きたいと思っております。

桜山A教場は、三井先生を中心に、現在七名です。何年か前を振り返りますと、半分以下になり、思いの外でございますが、健康を害された方、ご都合の悪くなられた方と、色

色でありましょうけれど、大きな寂しさを覚えます。そしてその頃が懐かしく思い出されます。

最初はなぎさ通りの近くの教場でした。今は亡き千葉岳香先生、そしてお母様もご健在でいらした頃は、お住いが教場近くでしたので、色々お世話をいただき、又ある時は味わい深い吟もお聞かせ下さり、和気和合そのものでございました。よき思い出をたくさんに戴き、本当に嬉しく思っております。

現在は逗子会館の教場で平均年令62・2才です。皆様それぞれに元気いっぱいに吟じ、吟そのものに情熱を注ぎ、健康そのものでございます。或る時は笑いあり、怒りあり、そして暖かさありで、一喜一憂、吟に入りては吟姉妹となり、皆様共々に人間形成の上に役立てたいものと思っております。"人生未完来"大好きな言葉です。死する迄がお勉強と思います。

倖せなことに、穏やかな、そして寛大な先生に恵まれたことを喜び、お教室の皆様、楽しく、そしてきびしく、スクラムを組みながら一生懸命に明るく参りましょうね。よろしくお願いいたします。

四季の移ろいを静かに眺めつづける

芭蕉の句碑

中村岳愛

まさに春たけなわの四月、岳郵の戦友の御好意で、西那須野、黒羽、日光方面を訪ねる機会を得ました。そして第一日目は奥様の運転でまず西那須野連山の茶臼岳へ。四季折々の変化に富み、噴煙をあげる姿は雄大でした。車に戻り、そのあと次々と名所、旧跡をご案内いただきましたが、車を運転しながら、事細かに行く先々の説明をして下さる奥様には頭が下がりました。

そして一度は訪ねてみたいと思っていた黒羽の"芭蕉の里"へ。車をおりると、まず馬の上の芭蕉とお供の曽良の像が私達を迎えてくれました。早速その前でカメラにおさまり記念館に入りました。中に入れば展示室には数多くの芭蕉にかかわる資料が展示されていて、思いは三百年前にさかのぼりました。

記念館を出て"芭蕉の広場"から、今は自然を活かした散歩道となっている"芭蕉の道"をゆくと、いくつかの句碑に出逢いました。

鶴鳴くや其声に芭蕉やれぬべし

田や麦や中にも夏のほととぎす

山も庭も動き入るるや夏座敷

行く春や鳥啼き魚の目は泪

等の句が刻まれておりました。また郊外にも旧蹟、句碑等が数多くあり、その中でも東山雲巌寺はすばらしい景観でした。禅宗の四大道場のひとつに数えられ、かつては芭蕉も、"奥の細道紀行"の途中詣でた名刹といわれ、

啄木(きつつき)も庵は破らず夏木立

の句碑が萌えるような新緑の中にありました。

思うに元禄二年（一六八九）弟子の曽良を伴い奥の細道へ旅立ち、旧暦四月三日黒羽に到着した芭蕉は、情緒溢れる景観にうたれ、14日間を黒羽ですごし、同行の曽良と共に数多くの句を詠んだのでしょう。これらの句は町の東西に広がる寺社などに句碑として残され、四季の移ろいを静かに眺めつづけておりました。

第二日目は何十年ぶりかに、技術の枠を尽くした日光東照宮を御案内いただき、その建築美にあらためて目をみはりました。十数年ぶりにお逢いできた嬉しさと、御夫妻の至れり尽せりのお心遣いと温情にふれ、深く心に残る思い出の旅となりました。

漢文の風景（黄河の流れに沿って）

（黄　河）

全長五四六四Kmの大河。中、下流域は中原と呼ばれ、黄河文明を築き上げ、幾多の英雄達が覇を競った、数千年の歴史の大舞台。

（万里の長城）

東は山海関から西は嘉峪関まで全長六〇〇〇Km余にわたる。周代に築かれて後、秦の始皇帝など歴代皇帝が補強、増築した。

（嘉峪関）

ゴビ砂漠に聳え立つ、明代の万里の長城の最西端。南方の吐蕃の来襲にそなえた。

（玉門関）

敦煌の北西80Km、漢代に出来た重要な関所。玉門関を越えることを「出塞」、万里の長城の外を「塞外」といった。王之渙や李白の詩で有名。

（渭　河）

甘粛省の鳥鼠山から東南流して、黄河に入る。唐の都長安（西安）の北を流れ、太公望の故事や、王維、岑参らの詩で有名。

（山海関）

万里の長城の東端の開城。明代の建造。

◇四月号の寺脇宇岳先生の「前向きにがんばってゆきたい」の文中の"笹鳴"を"笹鳴り"と間違えましたので訂正させていただきます。

笹　鳴

冬の鶯の鳴き声を笹鳴という。鶯は春から夏にかけて山深く棲み繁殖するが、秋になると平地に下りて暖かい海辺や、藪の中で冬を越す。その頃の鶯は美しい鳴き声を忘れたようにチヤッチヤッとしか囀ずらず、それを笹鳴とよんでいる。笹子ともいうが、冬鶯、藪鶯なども同じ意味で俳句では用いる。

春には季節にさきがけて美声で鳴くところから春告げ鳥とも呼ばれ、黄鳥とも書く。

ケキョケキョケキョと続けて鳴くのは鶯の谷渡りであるが、これは自分の縄張りを他の鶯に侵されないため警告の鳴き方である。

最近、テレビでは鶯にも方言があると、音声の周波を分解して報じていた。それによると昔、福島の城主が京都から上品な声の鶯をつれて来させたとのことであった。その鳴き方は福島に今も伝承されているが、同じ県内でも山によって違い訛っていた。それが茨城県では更に変った声で鳴いていたのである。

逗子、葉山で聞く鶯の声は、いつもそれが普通の鳴き方であり、いづこも同じと思っていたがテレビの中で聞いた、京都うぐいすの鳴き方と同一のように聞こえるのであった。

（碩心会員数一覧表の訂正）

◇前月四月号一頁上段の平成五年四月現在の合計会員数を四四七名に訂正

◇二頁上段の支部別会員数一覧表の逗子A会員数を56名に訂正

◇二頁上段の26支部合計数を四四七名に訂正

（入　会）

六七四　矢沢貞吉　逗子市沼間　三―十五―一
（山ノ根）　（電話）〇四六八―七一―一八二四

（横朗吟道会より移籍）

六七五　橋本トヨ子　逗子市久木　八―五―十一
（葉　月）　（電）〇四六八―七二―七三七九

六七六　渡辺叶子　逗子市桜山　二―四―二九号
（若　葉）　（電）〇四六八―七一―六〇七一

（退　会）

七五　清田蓮岳（銀　鈴）　一七一　関野啓風（山ノ根）
一九二　沼田昇風（下山口）　五四〇　角田美山（一色A）
六一九　坂田明泉（銀　鈴）